

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171000282		
法人名	寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム八潮		
所在地	埼玉県八潮市緑町1-12-8		
自己評価作成日	平成30年1月4日	評価結果市町村受理日	平成30年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成30年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設内の安全管理、地域との連携に努めている。・近隣医療機関との連携を密に取り、緊急時には適切な指示を受けられるよう働きかけている。・職員不足の中でも工夫して、社会参加が出来るよう努めている。・玄関には鍵を掛けずに利用者様が自由に出入りできるよう、さりげなく見守りに徹している。職員の不適切なケアを防止すべく研修に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の一つである「施設・職員にとって都合のよい介護は行いません」の実践の為に、玄関にかぎを掛けずに自由に出入りが出来るようにしている。「外に出たい」という利用者の気持ちを理解し、その都度離れてさりげなく見守りをする等、職員同士で連携をとりながら利用者へ寄り添う介護をおこなっている。また、尊厳やプライバシーの尊重に力を入れており、法人全体で不適切ケアをしない様にしている。例えば、利用者の身体状態や行動の把握と慣れた言葉やジャスチャーを使う事によりトイレの声かけ時の羞恥心を考慮している。そして、家庭菜園では、利用者は職員と共に苗の植え付けや水やり等の世話をし、収穫をしており、今年のみょうが、ニラ、ナス、ミニトマト等を植え、みそ汁等の具材として使用した。季節感を感じると共に食する楽しみを得る事が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1・利用者様が笑顔で居られるように不安を軽減し不安にさせません。2・施設・職員にとって都合の良い介護は行いません。施設理念を申し送りの時職員一同で唱和をし意識付けをしている。	毎日の申し送り時に唱和をして意識付すると共に、業務カンファレンスの時に接遇を中心に勉強会をおこなっている。新人職員は日々の業務の中で先輩職員がとる利用者への対応を見る事で学ぶ機会となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事への参加、散歩・買い物または地域傾聴ボランティア等に参加する機会を設け、地域の一員として交流をしている。	市、ボランティア主催の催しに希望者と職員が共に参加をし、楽しそうに過ごす姿が見られた。散歩時に子供や犬の散歩の人々に声掛けをしたり、買い物ではレジでやりとりをして地域の人達と交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や家族会又は地域イベントに参加する機会を設け、ホームの理解を得ている。散歩の時など、近隣の方とのふれあい、会話をしたり、認知症への理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告を行うと共に業務や運営に関する意見や要望等の意見交換を行っており、その内容は業務カンファにて職員に伝達をし、適宜改善するようにしている。	利用者の介護度、空室状況、事故、行事報告等をおこなう。地域包括支援センター職員から開催日や事故発生時の家族、役所への報告についてアドバイスをもらい、事業所内でフローチャートを作り対応をした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居状況などの報告に伺い、相談や助言を頂きながら質の向上に活かす等、常に連携を取りながら施設運営を行っている。	市には直接出向くほかメール、電話で連携をとっている。市主催の会議やその後の他グループホームと話し合う場に参加している。介護相談員の訪問を受け入れており、利用者の生活を伝える機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー、身体拘束廃止委員会を設け、研修会に参加、事例を用いながら職員伝達講習をし、気付にくい拘束等の対応方法の習得に取り組んでいる。	外部セミナーの参加や本社の接遇マナーを各事業所に合わせて委員会で伝えている。言葉遣いについては具体的な事例を用い繰り返しおこなっている。利用者が自由に玄関を出入り出来るように職員同士で連携を取りながら見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇マナー向上委員会を通して、「利用者様は人生の先輩」であり、尊敬の気持ちを持ち接しなければならぬ事、言葉一つからも虐待に繋がる事を伝え防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする入居者がいない為活用されていない。講習会などに参加し、学習の場を設けるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に出来る限り利用者様やご家族様に見学をお願いしている。契約時に契約書等だけでは分かりにくい箇所については別紙を用いて納得できる様に説明と理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の表情・仕草から情報を得るまたは面会に来られたご家族と話をする際に意見等を頂き、話し合いを行い改善に努めている。	家族会やイベント、面会時に家族から意見を聞き、貰ったメモはノートに貼り整理している。職員の名前が分らないという意見があり、エプロンに名前を付けた。利用者から分るようになって良かったという声が出た。	様々な機会を通して管理者、職員が家族から意見を聞く機会と姿勢を持つて。家族が伝えにくいと思う気持ちの有る事を考慮しながら意向を汲み取り反映する事を望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の言い易い職場作りを心がけ、業務カンファ等でよい提案・意見を反映させている。	業務カンファ以外に随時職員の話聞く。意見がある時は各ユニット毎に業務内容を決めたり必要物品購入をしている。職員が良いケアをする為に日勤帯の申し送り時間や休憩時間を確保する為の改善をおこなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社負担での講習や各種資格手当を設けると共に、休日日数(年間120日)や、シフトの融通性をもって、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修でも、必要であれば場合によって会社負担で講習に参加出来たり、OJTとして先輩職員が直接指導を行い、なるべく個々の能力や希望に添うように機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所が主催している市内グループホームの会合に参加し、事業者同士の連携を図り入居者の受け入れ先の相談などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談後、実地調査訪問し、実態状況の把握する事により、行動や表情の変化を見守り声掛けなどを行いながらご本人様との信頼を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望や相談を伺い適宜な助言、提案をさせて頂き、意見や要望など話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態やご家族様の心境などに配慮し、前もって施設要望書を用い思いを記入して頂き、サービスを開始している。対応の出来ないサービスについては、社外のサービスを提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者毎に出来ることを見つけ、掃除や料理の手伝い、レクリエーション等を一緒に楽しむよう心掛け、家族の一員として生活を共にする者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に入居者の様子をご家族にお伝えし、ご家族と共に考え介護を行う。その都度、職員を含め話し合い関係構築に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店などに買い物に出掛けられるよう支援をしている。ご家族や友人の訪問は、居室にて対応。地域傾聴ボランティア来所時、フロアにて、入居者のお知り合いも多く、昔話を楽しまれておられる。	孫におこづかいを送りたい、声を聴きたいので電話をしたい等への支援をおこなっている。市内の行事に参加する事は、顔見知りの人に会う機会となっている。家族の協力を得て馴染みの床屋に行く利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、日常会話やレクリエーション時には職員が加わり良い関わりが出来るよう、支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者やご家族にも今迄同様、行事のお誘いをしたり、退去後の様子を伺ったり、場合によっては相談に乗り助言をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とお話し希望等をお伺いしているが、お話の難しい入居者については、仕草や表情などから察し、その時に最適と思われる支援を実施している。	利用者が話易い態度や笑顔で接する事を心がけている。お茶や入浴時に話を聞く機会が多い。本音を言えない事もある事を理解し、仕草や表情から察するようにしている。職員は口頭により情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサマリーや既往歴、またはご家族等からの情報を活かし、さらに入居者のお話の中から、今までの生活を把握し、生活援助の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者毎の心身状態の変化に気を配り、日々の申し送りやケアカンファなどで検討し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にまたは必要に応じてケアカンファを職員と共にしている。ケアマネージャーが中心となり、ご家族からの意向も聞き入れ介護計画を作成している。	モニタリングは介護支援専門員が中心におこなう。ケアカンファレンスに欠席する職員の意見は紙に書いて伝えられ、医師や看護師から聞いた意見と共に反映されている。退院後や課題が生じた時に随時見直しをおこなう。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録に記入。申し送りノートを活用し、常に職員間で情報を共有しながら実践の見直し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々起こりうる病院受診や買い物など同行対応している。可能な限り利用者様が満足して頂けるサービスの取り組みの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	八潮メセナや楽習館で行われるイベント等を利用して頂き、また公共のバスを利用し出掛けたり、多くの入居者が安全で楽しく参加できるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診・週1回の訪問歯科の医療支援を実施。地域馴染み深い病院のため入居者及び当施設は安心をし医療を受けている。	訪問診療医と連携が良く、24時間相談できる。診療結果は変化の有った場合に連絡をしている。通院は家族対応だが、いない利用者は職員が対応している。事業所内の様子は職員が家族に口頭で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師により、入居者様の情報の共有に努め、随時、助言、指示を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、職員が面会に行き入居者に安心して頂いたり、病院関係者との情報交換や相談に努め、退院時の受け入れがスムーズに出来るよう、そして退院後の指導を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた対応指針があり、医療機関・訪問看護と連携し、精神面にも不安を軽減し、利用者様にとって安楽な生活を実現できるよう努めている。	入居時に方針を説明している。重度化した場合、医療が必要でないぎりぎりのところまで支援するが、利用者の状態や家族の気持ちの変化に応じて医師、訪問看護師、職員と話し合いをおこなう。カンファレンス時に職員同士の意識の統一をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、応急手当、防災救命時の訓練に参加し、普段から実践できるように取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署は近隣にあり、定期的に夜間設定を含む避難訓練・通報訓練・消火器の使用方法の再確認し、災害対策に取り組みとしている。	地震、火災のマニュアルを作成して訓練をすると共に職員は毎日役割分担を唱和している。避難訓練は、同法人の他事業所と合同でしたり、傾聴ボランティアの参加もある。職員連絡網を作成し、備蓄品の用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の今までの生活環境や生い立ちを理解し、不快感を与えない言葉掛けや傾聴しながら、一人ひとりの利用者様の日々の生活をサポートしている。	尊厳の勉強会や業務カンファレンスで確認をし、「不適切ケアの防止」は、年間を通して実施している。利用者に聞こえないように申し送りはインシュアルを使い、廊下でする等プライバシー確保の為の取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや気持ちを自然に表せるようにしご自身で決定をできるよう心掛け、表せない入居者に対しては表情や仕草などから思いを汲み取り自己決定への支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日程は決まってはいるが、介護者本位にならないようにし、一人ひとりのその日の希望に添いながらゆったりと時間を過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族のご協力を頂き、四季に合わせたご自宅にある洋服をお持ち頂き、外出時や当施設内での行事の際、装いやお化粧品にも気を配れるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳後、入居者に献立を説明し皆で「頂きます」をしている。賄いは職員中心ではあるが食前・食後のテーブル拭きなどできることをしている。	食形態が様々なので献立の説明をしている。フロア毎に盛り付けが映えるように食器を選び、食べ易い様に調理方法を変えて提供している。利用者の希望により食事レクや外食をおこない、完食する方が多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎の健康状態に配慮し、水分摂取量や召し上がられる食事を調整し、さらにその日の体調や献立に合わせてお粥や刻み対応し栄養、水分量の確保ができるよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医と連携も図れ相談、指導を受け、入居者様の能力に応じご自分で口腔ケアを行って頂き、その後職員が確認、不足しておられる部分のお手伝いをさせて頂き、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを読み取り、また表情や仕草を見ながら声かけ誘導にてトイレで気持ちの良いと思える排泄支援に努めている。	トイレで排泄をする事を大切にしている。どうしてもトイレでしたい利用者の希望に職員は二人対応をして応えている。職員は利用者の状況を申し送り時に共有して皆で知恵を出し合いきめ細かい対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排泄パターンの把握により適度な運動、水分量、食事などに気をつけ便秘の予防や自然排便が出来るように心がけている。牛乳、ヨーグルトなども摂取を試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当施設内での入浴時間に制限はあるが、希望によりいつでも入浴の出来る体制を整えている。入浴拒否がある場合は無理強いをせず出来るだけ本人の希望やペースに合わせて入浴できるように努めている。	利用者の希望により午前中に入浴や同性介助が可能である。風呂は一般浴槽だが、重度の利用者は二人介助で対応している。季節に合わせてゆず湯を提供している。浴室で若い時の話を職員としている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて湿度調整すると共に、冬季には加湿器又は濡れタオルなどにより、室温調整をする。生活リズム作り心掛け状況をみながら休息の声掛けをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示のもと、処方内容、処方変更及び往診受診内容を、各個人別に受診記録を記入、職員全員が把握できるようにし、処方変更投薬後の体調変化に十分注意をし、記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者毎の出来ることを把握した上決まった役割を持ち、その時の体調や気分などに合わせ実施して頂いている。無理の無いよう能力や嗜好に合ったレクリエーションの提供を考え参加をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調に合わせ散歩や外気欲を日課としている。行事に外食や郊外へ出掛ける機会を作ったり、本人の希望に出来るだけ添えるようご家族のご協力を得ながら美容室や外食に出掛けて頂いている。	玄関前の外気浴や1～2人毎に散歩に出ている。駅前の商業施設にバス、事業所の車で出かけ、オレンジカフェに参加している。買い物の個別支援をおこなっている。職員同士で連携を取り、市のイベントに出かけて社会参加を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じ、ご家族と相談の上、小口としてお預かり管理させて頂き、必要時にお出ししたりと本人の要求があれば、買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人及びご家族の協力・希望があれば電話などをいつでも掛けたり、とりつないだりしている。また、手紙も本人希望があれば投函したり返事が来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花、畑には農作物を育て収穫をし、年間で楽しむことが出来る。季節・風物詩のわかるもの、入居者の作品等を廊下に掲示をし目でも季節を感じて頂けるように工夫をしている。	廊下に旅の本や雑誌を置き、すぐに手に取る事が出来る。利用者の関係を把握し席替え等の配慮をしている。夜間転倒リスクの高い利用者の居室前の廊下に机とイスを置き物音がしたらすぐに職員が駆けつけられるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にてお休みになられたり、玄関先にベンチを設置し自由に外気浴のできるようにしている。またフロア席にも入居者同士の関係を考慮し居心地の良い場所としての提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に愛着のある家具や使い慣れたものを本人とご家族で相談をされ持ち込んで頂き、思い出のあるご家族様の写真や絵などを飾るなど、居室担当職員による季節感を感じていただける工夫に努めている。	利用者の希望により行事のカードや写真を貼る。安全に過ごす為に利用者の状態に応じた家具の配置や衣類の保管を家族と相談をする。居室ではテレビを視たりラジオ、軍歌を聞いて思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険と予測されるものを排除し、安全に自立した生活が行えるよう環境作りに心掛けている。居室入口やトイレなどに利用者様が分かりやすいよう、名札やポスターなどを表示している。		